
下位聖職者に救いの手を

イリアス (前AZURE)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

下位聖職者に救いの手を

【Nコード】

N6897T

【作者名】

イリアス（前AZURE）

【あらすじ】

時は現代。物語は一人の少年から始まった。

春休みが明け、新たな学年へと上がった梓のクラスに聖 結弦 ヒジリ ユズル と名乗る少年が転校してくる。イタリアからの帰国子女ということもあり、クラスのメンバーは興味津々。そんな中梓の親友、千早は彼に向かって叫んだ。

「なんで貴方が居るんですか!？」

そんな再開の後、ひよんなことから梓は親友、先輩、転校生の所為で悪魔払いへと巻き込まれていく。

『……という、ドタバタシリアス系ファンタジー、らしい。訳がわからぬ』

『聖君、それ言ったらお仕舞いだよ……』

基本こんなノリです。

少年の帰還（前書き）

えー、初投稿なので、色々突っ込み所満載だと思いますが、多めに
見て下さい……

少年の帰還

「……久し振りに、帰ってきたな」

そう言った彼の目の前には、高速ビルが立ち並び、人が溢れかえる港町があった。

本来なら彼位の歳の子供は学校に行っている時間ということもあり、町行く人からの視線が痛い、それを無視して歩いて行く。彼の足が向かう方向は駅。人が集うそこへ、僅かにためらいながら進む。

しかし、途中でその足が止まった。

「……こっちか」

そう呟いて、今まで向かっていた方向から回れ右をして走る。そして、走る彼の顔には僅かな焦りと苦痛が出ていた。

走りながらジーンズのポケットから携帯を出し、予め登録してあった番号へと電話をかける。すると相手はワンコールで応答してきた。

『Pronto?』

なんと相手はイタリア語で話した。

「現在日本には多くの出現が見られるというのは本当らしい。この任務、オレが受ける」

繋がった相手にもしもし、もなければ主語もない、ついでに突拍子もない一方的な言葉を投げかける。しかし相手はそれだけで通じたらしい。理解した上での返事が来る。

『了解しました。……因みにいつもより息が荒いですが、お仕事が入りました?』

「ああ、低級も良いところだが、いつか成長される位なら今のうちに漬けた方が楽だからな」

『……やはり抑えが効かなくなっているんですね……では、任務の準備はこちらでしておきます』

相手はそう言っつて電話を切つた。切れたことが分かつて、走っている少年も携帯を閉じ、再びポケットにねじ込む。

丁度そこで海と、低級すぎて形のないソレ（・・・）が見えた。その光景に、少年は口の端を歪め、何処から出したのか、持っていた短刀を指へと当て、一滴の紅い血を大地へと滴らせた。

少年の帰還（後書き）

ここまで読んで下さり、ありがとうございましたm()m

因みにこっちは私の中でメインじゃないんです。本当は異世界ファンタジーを投稿したかったんですけど、友達にノート貸したら返ってこなくて。どーせ初投稿でボロクソになるなら、練習でこっち入れるぞ！という訳で、ノートが返って来次第、そっちに移ります。いや、こっちもちゃんと書きますけどね。多分。

ブローグ 少年の噂（前書き）

ふ、2日連続投稿……

誤字脱字があったら、ご指摘お願いします。

プロローグ 少年の噂

「あつずさ〜!」

「うわあ!?!千早ちゃん!?!」

車がそこそこ行き交う通学路。その途中でいきなり後ろから抱き付かれた事に梓は驚いた。学校に着くには丁度良い時間の為、人が多く、千早が近づいた事に全く気がつかなかったのだ。受け身が取れず、少し前のめりにつんのめる。

「えっと……お早う?」

「ん、おはよ。ね、放課後、何処か遊びに行かない?」

一応といった具合に引きつった顔で挨拶すると、軽く流されてこの年齢ならではの約束を取り付けてくる。

「放課後?いいよ、行こう!」

梓も特に用事はない為承諾し、二人で計画を立てながら仲良く登校する。

すると校門をくぐり、下駄箱へと向かう途中、廊下で井戸端会議を繰り広げる教師達を見つけた。そしてその中に前担任の藤崎(くたびれたサラリーマンのようだが20代)が居たので、二人は少し耳を傾けた。

「今日二組に転入してくる生徒、どんな感じですか?」

「あゝ、二年の。俺面接やったけれど、落ち着いた感じでしたね」
「編入試験で文系はほぼ満点取ったんですね?数学がちよつとアレでしたけど……」

二年二組に転校生と聞き、二人は目を輝かせた。二人とも新中二。もしかしたら……という気持ちで、クラス発表を見に急ぐ。

「そつえば男女どつちなんだろう?」

「さあ?ま、楽しみだなー」

新クラスが貼ってある掲示板の前に何人か居た友達に挨拶をしつつ、二人はクラス発表を見た。

「えーつと……一組……は、無い」

「あ、二組に私の名前。千早ちゃんも！」

二組の紙に今井梓と上原千早の名前があるのを見て二人で喜んだ。仲が良かった為、離されるのを覚悟していたのだ。

「やった！また一緒！」

「出席番号隣だし！……で、転校生は……」

自分達の名前が見つかったので、次は例の転校生を探そうとした。が、後ろから来た人達にその場を押し退けられてしまい、見れなくなってしまった。

「きゃあ！つて何よ！もう」

「しょうがないよ。後で紹介されるだろうし、楽しみにしよう？」
人がごった返す中、もう一度見るのは難しそうなので、二人は名残惜しくも掲示板の前を後にした。

もしそれを千早が見ていたら後に絶叫することも無かっただろう。
掲示板にあった名前は

聖 結弦

プロローグ 少年の噂（後書き）

主人公が出て来ません……

アレ？まあ、次回から登場します。多分。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6897t/>

下位聖職者に救いの手を

2011年10月9日04時10分発行